

車いすマラソンレースディレクター
副島 正純

「東京マラソン2021」の車いすエリートレースは展開予想が難しいというのが正直なところ。どんなレースになるか、誰が勝つか予想が付きにくい分、楽しみなレースでもあります。

コロナ禍による延期などもあり、2021年はAbbottWMMシリーズの各レース日程が昨年9月下旬から11月にかけて集中する異例の連戦となり、さらに、9月5日には東京パラリンピックのマラソンが、11月21日には世界新記録と日本新記録が誕生した大分国際車いすマラソンも開催されました。「東京マラソン2021」も当初は10月17日に開催予定でしたが、2022年3月6日に延期されたことで、今年は約2年ぶりの開催となります。

また、例年とは異なり、感染症対策での隔離など渡航によるストレスも大きいこともあって、今大会では海外選手の招へいが難航しました。最終的に、日本勢が8割以上を占める状況です。

これまでは海外の強豪選手たちを軸にレースが動くことが多く、今年のレース展開が予想しにくいと言うのはそういった理由からです。

もう一つ考慮する点として、今年は道路工事の影響などによりコースの数カ所が変更されています。とくにスタート直後に左折が度続くのは大きな変化です。一般的に、コーナーの手前では減速を強いられ、曲がってからの立ち上がりには加速が必要になります。スタートダッシュが速い選手はコーナーの立ち上がりも速いので、コーナーが連続している新コースでは、ここで選手間の差がついてしまうことが考えられます。スタートからレースが動く可能性が大いにあります。

海外選手を上手くまき込み、日本選手を中心に展開ができれば、日本選手にも大きなチャンスがあるのではないかと期待しています。コロナ禍で、レース自体が少ない今、特に東京パラリンピック出場を逃した選手には東京マラソンへ向けてしっかり調整し、結果を追求してほしいと思っています。

■男子は、日本勢にもチャンス

ではまず、男子のレースからみてみましょう。海外招待選手はマルセル・フグ(スイス)とジョンボーイ・スミス(イギリス)の二人で、ともに東京パラリンピックのマラソンにも出場しています。フグはリオに続き、スミスは初出場で10位に入りました。二人は持ち味が異なり、フグは積極的に先頭でレースを作るタイプ、スミスは集団について走るという特徴があります。日本からはただ一人、鈴木朋樹(トヨタ自動車)が東京パラリンピックのマラソンに初出場。初出場し7位入賞。そして11月の大分国際車いすマラソンでは、22年ぶりに世界新記録を更新したマルセルに最後は離されてしまいましたが、鈴木も日本新記録を更新しています。勢いのある鈴木がこの東京マラソンでどんな展開をつくるのかにも注目しています。

さて、東京マラソン2021はコース変更もあり、スタート直後からレースが動く可能性があります。持ちタイムや持ち味から言って、フグと鈴木がリードして逃げるのが考えられます。他の選手はここでトップ二人を逃がさないように、食らいつくようにしなければなりません。ここで離れてしまうと、追いつくのはかなり厳しくなりますから、日本選手には新しいコースのスタート対策をしっかり準備してほしいです。

もし離されたとしても落ち着いて、先頭にできるだけ近い位置で集団を作りリズムを保ちたいところです。持ちタイムからいって、第2集団はスミスや吉田竜太あたりが中心になるかと思います。そこに、西田宗城や渡辺勝がどう絡むか。実績などから考えると、集団は2つか3つに分れるのではないかと予想しています。

東京マラソンのコースは高低差が少なく、昨年は鈴木が8km付近から独走して1時間21分52秒の大会新で優勝しました。この実績から、「好タイムが出るコース」と他の選手も意識してくれば、高速レースも期待できるでしょう。今年も、昨年の優勝タイムを超えるようなタイムでレースが展開されると嬉しいです。

先ほども言いましたが、特に東京パラリンピックに出場できなかった選手にとっては大きなチャンスなので、この機会を生かしてほしいです。次のパリ・パラリンピックまではもう3年を切っています。今大会で、絶対王者のフグや東京パラ出場で経験値の増した鈴木やスミスに勝てれば、大きなアピールになりますし、もちろん、大きな自信をつかめます。結果を求めて、積極的に挑んでほしいです。

■女子も、見応えあるレースに期待

女子の招待選手は国内のみとなりました。喜納翼(琉球スポーツサポート)は東京パラリンピックに初出場しましたが、1時間42分33秒で7位入賞。悔しさもあると思うので、今大会は新たな気持ちでチャレンジしてほしいです。8大会目のパラリンピック出場を果たした土田和歌子(ウィルレイズ)はトライアスロンとマラソンの2競技に出場しました。1週間で2レースと疲労を残している可能性が高い中で、マラソンでは自己記録に迫る1時間38分32秒で4位に入りました。この東京マラソンでもベテランならではの走りに期待しています。

女子のマラソン選手は日本ではとても少ないので、「挑戦してみたい」と思える選手が増えるような、刺激ある熱いレースを期待しています。

■レース前半に仕掛け、スプリントボーナス

昨年初めて実施した「スプリントボーナスポイント」ですが、今年はAbbottWMMポイントとしてだけではなく、東京マラソン独自の仕掛けとして実施します。

昨年は後半の37km地点というレース終盤に設定しましたが、今年は早い段階でレースに刺激を入れたいと思い、前半13km地点にあたる日本橋室町付近に設定しました。東京マラソンはコースの特性上、序盤が下り基調のため高速での展開になりやすく、10km辺りで一度、疲労が出やすいコースとなっています。13km地点での仕掛けによってギアを入れ替えることで、「前を追っていこう」「食らいついていこう」といったチャレンジの意識をもう一度高め、レース展開が変わるきっかけにもなればと考えています。今年は「400mの目標タイム」にチャレンジします。男女それぞれのマラソン世界記録(2021年10月 現在)から割り出した400mのラップタイムを目標タイムに設定し、このタイムを切った選手全員に賞金を授与します。目標タイムは男子が35秒、女子は45秒です。

ただし、コース事情から走行区間は400mでなく、約380mと短くなりましたので、選手たちには積極的に狙ってほしいです。

■選手層の広がり期待

東京マラソンの車いすの部の参加資格は障がいクラスの「T53、T54」となっていて、毎年招待選手はより障がいのレベルの軽いT54の選手が中心となっています。

しかし、幅広い選手にも挑戦して車いすマラソンの可能性を見せてほしいなと思い、今年は東京パラリンピックでT52クラスのトラック種目で活躍した佐藤友祈(モリサワ)出場を依頼しました。エリート招待選手ではなく、一般招待選手なので上位に入っても表彰対象とはなりませんでしたが快諾してくれました。

T52クラスは手にも障がいがあるなど障がいのレベルは重くなります。佐藤はマラソンの経験もあり、東京マラソン出場資格である「マラソン2時間以内」の公認記録も持っています。また、東京パラリンピックでは400mと1500mに出場し2冠を達成した実力者です。

1時間20分台の記録をもつT54の選手たちとは少しタイム差はありますが、いいレースを見せてくれると思います。またT54の選手たちと競り合い、上回る順位で走ってくれたら、面白いですね。

東京マラソンは参加資格が厳しく、「敷居の高い大会」という声も聞こえていますが、「2時間以内をクリアしていれば出場は可能」ですから、ぜひ多くの車いすランナーにチャレンジしてほしいし、目標や刺激となる大会であってほしいと思っています。佐藤の出場によって、そんなメッセージも伝えられたらと思います。

雨や風など天候もレース展開を左右する大きなポイントになりますが、レース当日の天候は選手にはコントロールできません。出場するすべての選手には、練習内容や体調の調整など自分でコントロールできることに集中し、当日は自信をもってスタートラインに並んでほしいです。そして、ワクワクするようなレースを見せてくれることを大いに期待しています。